

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2018

と き 平成30年10月30日(火)・31日(水)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

南方釜田遺跡 岡山市北区南方

南方遺跡は、現在の岡山駅の北側周辺に所在する弥生時代を代表する大規模な集落遺跡です。南方釜田遺跡は、遺跡の中でも北側の微高地上に存在し、過去の調査では縄文時代から近世にかけての遺跡であることが分かっています。

今回は、南北に縦長のトレンチ(調査区)を2つ設定して調査を行いました。その結果、弥生時代中期の後半(今から少なくともおよそ2000年以上前)の竪穴建物を3棟以上、古墳時代の竪穴建物(約1600年前)を1棟分検出し、生活する際に使用された土器など(弥生土器や土師器)がみつかっています。南方釜田遺跡では、過去の調査においてこうした居住スペースが確認されていなかったため、今回は集落の住居域の一部が明らかになりました。また、旭川西岸の沖積平野に分布する弥生時代の集落遺跡の変遷や消長を考える上で、欠かすことのできない成果の一つとなりました。

造山古墳 岡山市北区新庄下

造山古墳は全国第4位の規模を誇る、墳長350mの前方後円墳として有名です。自由に立ち入れる古墳としては日本一大きい古墳です。岡山市教育委員会では2014年度より造山古墳群の保存整備事業として遺跡の範囲確認を目的とした発掘調査を実施しています。

2017年度は、造山古墳の後円部北西周辺における埴輪列や葺石の有無の確認が目的です。調査地点周辺は、過去の土取りなどによって墳丘が削られていました。

調査の結果、トレンチ3では、墳丘端に当たる箇所から葺石の一部と推定される石列を確認しました。造山古墳の規模や墳形を今後追求していくうえで重要な発見といえるでしょう。またトレンチ3とトレンチ4では、地山と墳丘盛土の堆積状況を確認できました。このたびの成果を基に、今後の後円部発掘計画を進めていくこととなります。

出土遺物は埴輪片が多数出土しました。これらの埴輪は保存状態が比較的良好で古墳の上に立て並べられていたものと思われます。



西口(高島小)遺跡 岡山市中区国府市場

西口(高島小)遺跡は、現在の岡山市立高島小学校内に位置しており、また備前国府関連遺跡の範囲内です。周囲にはハガ遺跡や南古市場遺跡などが立地し、過去の調査で国府に関係するような遺物や遺構が確認されています。

今回の調査区の西側では、北東から南西の方向にかけ細長の溝状遺構が複数平行する形で検出されています。これらは、調査区の大半にわたってみつかり、大規模な耕作の痕跡と考えられ、畑としての利用などが想定されます。また調査区の東では、土地の標高が低くなるたわみ状の部分があり、そこからは鉄生産に関わる遺物が廃棄された状態で出土しています。

こうした遺構や遺物のあらわす年代観は、7世紀から8世紀にかけてのものとなっており、国府の成立する前後の時期と被ってきます。この時期の、西口(高島小)遺跡を中心とする範囲では、多様な生産活動が活性化した様子を把握することができます。

金蔵山古墳 岡山市中区沢田・円山

金蔵山古墳は操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長約165mとされ、造山古墳以前では中四国九州で最大規模を誇ります。平成23年度から史跡指定を目指し測量調査、範囲確認調査を実施しています。

平成29年度の調査は、前年度に引き続き東側くびれ部の「島状遺構」周辺で行いました。調査では「島状遺構」周囲の葺石や多くの埴輪を検出し、「島状遺構」の形態や構造、置かれた埴輪の様子が判明しました。

島状遺構は上面で1辺10m程度の方形で、陸橋で古墳本体とつながっています。島状遺構と墳丘との間の谷状の部分には、柵形埴輪と圀形埴輪、建物形埴輪を置いていました。この建物は中に水を流す溝と水槽の表現がある特殊なもので、L字形平面の圀形埴輪とあわせ「水のマツリ」を表すものです。

一方、島状遺構の上の平坦面からは柵形埴輪と建物形埴輪、蓋(きぬがさ)形埴輪、アケビとみられる果物を象った土製品が見つかっています。建物と蓋の組合せは身分の高い人物の住居を思わせ、そこに食べ物を象った土製品を供えるといったマツリが行われたのでしょうか。